

基盤教育部門

英語教育部

「自律学習の推進」 「英語学習の質保証」 「国際交流の推進」

英語教育部 （文責 満尾貞行）

「活動報告」で述べたように、英語教育部は英語教育における変革を目指しています。変革をする上でのキーワードは、「自律学習の推進」、「英語学習の質保証」「国際交流の推進」です。活動報告と重複する部分はありますが、あらためて記述します。

#### 1. 自律学習の推進

「自律学習者」とは、自ら教材を選び、学習計画を立て実施し、評価できる人のことをいいます。国大には様々な専門分野があり、各学生も多様な学問的興味を持っています。各学生は、ある分野に関しては既に「自律学習」をしているかもしれません。私達英語教育部が考えていることは、英語学習においても自律学習ができるようにお手伝いすることです。その一手段として「授業」（英語実習）があります。授業を通して、英語力を伸ばすことと共に自律した学習への意識改革を目指しています。いかにして自律学習の推進を図るかについては、英語教育部としての日々の研鑽努力は無論、年に2回の英語実習担当者による研究会を開き、FDを実施しています。

もう一つの手段として、国大の英語学習環境の整備があります。それは、セルフ・アクセス・センターSALC (Self Access Language Center)の設立です。このセンターの役割は、学生たちが授業外で英語学習をする場所の提供であり、また、センター独自の学習プログラムの紹介は無論、常勤・非常勤の英語教員同士の意見交換や研究発表の場所となること目的としています。このように、セルフ・アクセス・センターは、単なる学習リソース・センターではなく、学生個人のニーズ・興味・レベル・学習スタイルを尊重した学習支援

を行うとともに、英語授業者と積極的に連携することで授業をより効果的なものにする役割を期待されています。活動報告にもありますが、少しずつですが目標に向かって前進しています。

SALC は、上述した機能を果たしていくために、英語学習の観点からは、四つの役割を果たしていく必要があります。四つの役割とは、①学習者の内発的動機付けを助けること、②学習者へ豊富な教材を用意し有効・質の高い英語のインプットを供給すること、③英語によるインタラクションの機会の供給—これは、会話のみならず、学習者が書く英文に対するフィードバックも含める、④学習者オートノミーの育成であり、言い換えればアドバイジング・サービス、学習者ディベロップメントのプログラム、協働学習の機会等の供給です。以上を踏まえると、機能的な SALC には、少なくとも、(ア) 自律を促すという理念、(イ) 学習者の個別化学習の機会の提供という実践という二本柱の目標 (Sheerin, 1997)<sup>1</sup> と共に以下の条件が必要になります。

- ① 学習リソース
- ② 個別学習エリア
- ③ グループワーク、学習共同体を形成する場
- ④ 学習支援デスク
- ⑤ 特定のスキルを上達させる専門家のサポー学習方法などについてのワークショップ、催しプログラムの提供
- ⑥ 目標言語を使えるような機会（なるべく自然な環境で）
- ⑦

SALC は、利用者（学習者）あつてのセンターであり、学習者の意欲をより促進し内発的動機を高める役割を持ちます。したがって、学生のニーズを把握することが成功の要因となります。英語教育部の「自律学習の推進」の展望とは以上のような内容です。少しでも理想に近づけるよう日々努めていきます。

## 2. 英語学習の質保証

---

<sup>1</sup> Sheerin, S. 1997. An Exploration of the Relationship between Self-access and Independent Learning. In Benson, P. and Voller, P. (eds.). 1997. *Autonomy and Independence in Language Learning*. London: Longman.

(活動報告より) 国大の多様な入試形態のもと、多様な学力や個性を持った学生が多く入学してきます。このことから、学生の英語力の保証について先行する他大学と比べ、目標とする英語力は、より現実的な基準設定となっています。これは、全学的な共通理解を基に設定されたもので、その共通理解の中で英語力の向上を目指そうとするものです。英語実習 1LR 秋学期は TOEFL-ITP の得点で成績評価基準が明示されますが、これ以外の他の英語実習科目においても、より具体的かつ現実的な到達目標を設定し、教育活動の改善を進めます。全体像として、1年次には、YNU EGAP プログラム(1年次総合英語プログラム)により、英語の4技能についてオールラウンドな英語力の質保証を目指します。さらに、2年次以降には、YNU EGAP プログラムの成果を基盤として、YNU ESAP プログラム(2年次以降の学術的専門分野における英語学習プログラム)を提供することで、より高度な英語技能の習得を目指します。

平成26年度は、特に1年次総合英語プログラムの充実を目指します。一つは、「国大クワイテリア(仮称)」の設定を目標に、具体的な方策を検討し、その内容を明文化していく予定です。例えば、1年生用ライティング授業の達成目標では、「英文法基礎知識の復習が十分行われていて、英文パラグラフライティングの基本用語および基本構造について学習を完了している。これらの知識を実践的に活用し、4から5パラグラフ構造の数百ワードの英文が問題なく書ける。」のような具体的情報が入った達成目標を設定する予定です。リーディング、リスニング、スピーキングに関わる授業についても、より具体化した達成目標を挙げていきます。更に、「授業外」における学習活動についても、自律学習と支援学習の両面から、学生の英語力の質保証への働きかけを行っていきます。具体的には、多読多聴用教材資料の拡大・充実が入ります。英語教育部がこれら教材資料の運営管理の主体となって、本学1年生が読むべき英文の「量」および聞くべき英文の「量」についての研究と共に、学生への学習提案を行います。

2年次以降の学部英語演習科目と2年生用英語実習科目については、現在と同様に各学部と英語教育部が協働しながら運営を行っていきます。これらの2年生用英語科目が、1年次の学習のための英語力養成から、より高度な英語運用力養成に応える科目となり、専門知への橋渡しとして上級学年での学術研究等に貢献できることを目標にします。そのためにも、具体的な授業方針や取り組み課題を設定していく予定です。

3. 国際交流の推進・・・「活動報告」参照のこと